

## 2 カンモンハタの捕食可能なティラピアの大きさについて (昭和55年度)

前項の試験でティラピア類がカンモンハタの餌料として利用できると考えられたのでカンモンハタの捕食可能なティラピアの大きさと好む大きさを検討した。

カンモンハタの捕食可能なティラピアの大きさは体長の約半分、体重の約20%の大きさで(表-2、3)、体長の30%程度までならティラピアはカンモンハタの口内に完全に納まるがそれ以上だと口からはみ出るようになった。また捕食可能な大きさまでのティラピアを同時に投餌した場合の結果(表-4)では、体長の30~40%以上のティラピアがよく捕食された。

このようなことから、カンモンハタの餌料としてのティラピアの大きさは体長の50%程度までが有効で、30%程度が適当だと推察された。

## 3 ティラピア・モザンビカの海水中における繁殖 (昭和54年度)

ハタ類の餌料としてのティラピア・モザンビカが海水中でどの程度繁殖し得るかについて汽水域に生息している親魚を用いて試験した。結果は10t コンクリート水槽内で3ヶ月間に748尾(5.2kg)と947尾(4.9kg)の種苗が生産でき、ティラピア・モザンビカの海水中における繁殖は正常に行なわれたものと思われた。